

ホームレス経験者の特性と職場環境等に関する研究  
一企業内教育訓練とホームレス経験の関連に着目して一

熊倉ゆりえ・竹下諒

(2014)『広島国際大学医療福祉学科紀要』10, pp61-85

本論文の目的は、中高年ホームレス経験者の以前の職場における企業内教育・訓練の有無とホームレス経験との関係を調査するものである。社会的排除の研究では、産業構造の転換だけでなく、派遣などの雇用形態にみられる雇用期間の短さや、それに起因する企業内教育・訓練すなわち人的資本蓄積がないことが、排除の原因となっていることが明らかにされている。しかしながら、ホームレスの方々が企業内教育・訓練を受けていたか否かの関連性は未だ明らかになっていないため、調査を通じて検証を行なっている。

分析の結果、中卒に比べて教育年数が長くなるとホームレス経験者になる確率が低くなること。初職がパート・アルバイト・日雇いであった者に比べて、非正規・契約社員や正社員のほうが将来ホームレス状態に陥る確率が減少するという結果を得られた。しかし、前職での企業内訓練の差は将来におけるホームレス経験者になる確率に優位な影響を及ぼしていなかった。つまり、ホームレス経験者は企業内で人的資本蓄積が阻害されるような立場にいなかったことが推測される。

我が国のホームレス問題は、バブル崩壊後の産業構造の転換に起因するものとされており、とりわけ1960年代から建設産業が多用してきた日雇い労働者の失業と大きく関わるものと説明されてきた。我が国のホームレスは中高年が多く、それにも関わらずホームレスの自立支援政策は就労重視のものになりがちであり、中高年ホームレスでもある程度参加しやすい職場を考えることが今後の課題と予測される。